

2026 年 7 月 16 日

報道関係者各位

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センター が「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」の骨子案を公表

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センターは、「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」の骨子案を公表します。同センターでは、健全で闊達な情報空間の実現を目指し、これまで「[AI 時代の報道機関のあり方に関する提言](#)」（2026 年 1 月 26 日）と「[これからのデジタル倫理考えよう！宣言](#)」（2026 年 3 月 20 日）の公表、ならびに新組織の設立に向けて準備を進めています。「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」では、これらの延長線上にある取組として、現在のデジタル空間に通底する「正直者が損をする」エコシステムの改善を目指しています。広告主の皆さんをはじめ、広告に関係するすべて人々が、デジタル広告エコシステムの仕組みを理解し、デジタル広告特有の問題であるブランドセーフティの毀損やアドフラウドの被害について対策を進め、AI 普及後の広告の課題と対策について意識を高めてもらうことで、誠実なクリエイター、メディア、プラットフォーム、広告主の間でのネットワーク構築を推進していきます。

1. 「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」の背景・意義

デジタル空間では、人々のアテンション（注目）獲得を巡る競争が激化しています。こうした環境は、コストや時間をかけて丁寧に情報を生成・発信したり、プラットフォームの安全なサービス設計を行うインセンティブに欠ける「正直者が損をする」エコシステムを生み出し、民主主義社会を歪ませる偽・誤情報、ヘイトスピーチ、誹謗中傷などの蔓延を後押ししています。そして、現在のデジタル広告エコシステムは、こうした環境を支えてしまっています。またデジタル広告は、これまでの広告と異なり、いつ・どこに広告が掲載されたのか不透明なところがあるため、ブランドセーフティの毀損（※1）やアドフラウド（※2）といったデジタル広告特有の問題を抱えています。こうした問題は AI チャットボットに広告が導入されはじめ、広告クリエイティブも AI を利用して作成できるようになりつつある現代において、ますます深刻化していくと思われます。

しかしながら、本来、広告という仕組みは、信頼性の高いコンテンツ（e.g. 報道）を発信するメディアを収益面で支えることで、民主主義社会を支えてきました。無料または安価で質の高いコンテンツにアクセスできることは、私たちの社会をより豊かに前進させることにつながります。そこで X Dignity センターは、広告主をはじめとする広告に関係するすべての人々が、より誠実なデジタル広告エコシステムの可能性を追求し、問題点の改善に取り組んでいくことを強く願い、新たなデジタル広告倫理のヴィジョンを公表します。

※1 企業の広告が偽情報サイトをはじめとする不適切なウェブサイトに掲載されることにより、ブランドイメージを損なってしまうこと

※2 ボットをはじめとする自動プログラム等を用いて広告の表示回数やクリック数等を水増し・偽装し、広告費を不正に搾取すること

2. 「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」骨子案の内容

骨子案では、以下の通り、6つの指針を示しています。 ※変更になる可能性があります。

「つ」よい信念をもって健全な情報空間をつくる

「ク」リエイティブ（広告制作物）は数字だけを追わない

「り」かいを深め、信頼できる事業者どうしで手を結ぶ

「た」んとうしゃを決め、つねに経営課題として意識と知識をアップデートする

「い」き先、知ってる？ 自社広告の行き先を意識する

「ネ」クストジェネレーション（次世代）とともに未来のデジタル空間を築く

3. 広告主に向けた「AI 時代のデジタル広告倫理ヴィジョン」に関するサロンを開催

X Dignity センターは骨子案を広告主企業の皆様に説明し、新組織の理念への賛同ネットワークを構築するため、下記の通り、サロンを開催します。

サロン名	「AI 時代のデジタル広告倫理」に関するサロン
日時	2026 年 7 月 16 日（木）17 時～18 時 30 分
場所	慶應義塾大学 三田キャンパス
担当教員	水谷 瑛嗣郎（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所 准教授） 山本 龍彦（慶應義塾大学大学院法務研究科 教授）
規模	約 60 名（予定）

■ 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所とは

ジャーナリズムとメディア・コミュニケーションの研究と教育を目的とした研究所です。所属する学生には、ジャーナリズムとメディア・コミュニケーションに関する基礎科目や、メディア心理学、政治社会学、法学、歴史学などに関するゼミ、業界の最前線で活躍している実務家による新聞・放送・広告・PR などについての少人数形式の講義や演習を開講しています（研究所在籍生 約 200 名、入所試験合格者 毎年約 60 名）。実際のメディア関連の仕事の現状を直接体感できる授業も多く、新聞、放送、通信社、出版、広告などメディア業界で活躍する優秀な人材を輩出し続けています。



■ 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センターとは

慶應義塾大学は、21 世紀における「尊厳 (dignity)」の再定義を目指し、新たな領域横断研究の拠点として、2024 年に X Dignity センターを設立しました。牛場潤一（理工学部 教授）、大久保健晴（法学部 教授）、徳永聡子（文学部 教授）、山本龍彦（法務研究科 教授）の共同代表により設立され、様々な学問領域の重層的な連携、産業界や一般社会との交差（クロス）を通じて、21 世紀における「尊厳」をめぐる倫理的価値を考究し、その成果を世界へと発信しています。



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは、文部科学記者会、各社社会部等に送信させていただいております。

・お問い合わせ先

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート X Dignity センター

E-mail : x-dignity-group@keio.jp <https://www.x-dignity.kgri.keio.ac.jp/>

・本リリースの配信元

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (KGRI) TEL : 03-5427-1702

E-mail : kgri-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/ja/org/kgri/>
